

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	演劇概論Ⅰ	
科目基礎情報					
開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	15時間
単位数	1単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回資料を配布する。副読として『ハムレット』（角川文庫）『ロミオとジュリエット』（筑摩書房）『桜の園・三人姉妹』（新潮文庫）を使用				
担当教員情報					
担当教員	宮下明日香		実務経験の有無・職種	有・演劇制作	
学習目的					
現在数多くの舞台が各国で上演されている。言語も異なれば、時代も場所も多様な設定がなされている。その舞台を創作する演劇界で働くためには、アカデミックとプラクティカルな両面を求められる。演劇がどのように成立し、現代にまで導かれているかを考察し、演劇の歴史の流れを認識する。学術的に演劇を理解することにより、実践へと結びつけることができる。					
到達目標					
東西問わず古典劇は現在も多く上演されている。前期は紀元前5世紀の古代ギリシャ時代から17世紀初頭までの西洋演劇史を理解する。時代背景や劇場構造の変化など作品を通して考察する。後期は引き続き西洋の近代演劇を分析する。時代の思想が変化する中で、戯曲の構造や思想の変化を説明する。また日本の演劇史も神話の時代から、江戸・明治・大正・昭和時代までの日本の演劇史を身につける。特に歌舞伎から新劇へとの移り変わりを学ぶことにより、現代の日本演劇の根底を理解することができる。					
教育方法等					
授業概要	各時代の東と西の演劇を学ぶ中で、授業で扱う作品のDVD鑑賞を取り入れていく。学術的に学びながら、実践的にどのように古典劇が現代で上演されているかを感じながら言及していく。				
注意点	この授業は、各作品を読みながら授業を展開していくため、授業で扱う作品を事前に読んでおくことが望ましい。私語、居眠りを禁止とする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	50%	基本的な授業を理解しているかによって評価する。		
	課題	25%	定期的に提出するレポートの内容によって評価する。		
	授業態度	25%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	イントロダクション		授業内容の紹介、演劇の始まり		
2回	古代ギリシャ演劇（1）		ギリシャ演劇の特色		
3回	古代ギリシャ演劇（2）		『オイディプス王』の読みと分析		
4回	ローマ演劇		ローマ演劇と当時の時代背景		
5回	中世の宗教劇		聖書劇、道徳劇		
6回	ルネサンス演劇		時代背景、イタリア演劇		
7回	エリザベス演劇		時代背景、イギリス劇場構造		
8回	シェイクスピアの人物		シェイクスピアの人物像、作品と時代の関連性		
9回	シェイクスピア作品（1）		『ロミオとジュリエット』の読みと分析		
10回	シェイクスピア作品（2）		『から騒ぎ』の読みと分析		
11回	シェイクスピア作品（3）		『十二夜』の読みと分析		
12回	シェイクスピア作品（4）		『ハムレット』の読みと分析		
13回	シェイクスピア作品（5）		『ハムレット』の読みと分析		
14回	シェイクスピア作品（6）		『オセロー』の読みと分析		
15回	まとめ		総括と学習到達度の確認		